



1日付で、NITTOから『infrat（インフラト）』に社名を変更した。末尾の「t」は+（プラス）を表現し、「インフラに新たな価値をプラスする」という思いを込めた。「社会にプラスな企業となるため、新たな挑戦を続けたい」と先を見据える。

創業から約50年、橋梁・鉄塔塗装などインフラメンテナンスの実績を重ねてきた。インフラの老朽化が何をもちたらすのか。それが痛ましい結果となって現れた笹子トンネルの天井板落下事故は、自社の業務形態を見直す転機となった。社会インフラを支え、守り抜くことを使命とする考



infrat代表取締役社長

飛鳥 正文 氏
あすか まさひこ

インフラメンテの業務拡大を

えが「より強くなった」と振り返る。今後は自社の持ち株会社とも連携し、業務領域の拡大を目指す。

インフラの維持管理は国内全体の喫緊の課題だが、業界の慣習と構造が「今の時代に合わなくなってきた」と指摘する。「入札参加の地域縛りや受注機会の制限が事業の進捗を妨げる」ことを懸念し、制度の変革を訴える。

「人材を育てるためにも、適正な利潤を得られる仕組みづくりを求めていきたい」。維持管理を担う企業の健全な成長につなげたい考えだ。

若い頃、瀬戸大橋やベイブリッジなどの巨大インフラの開通を目の当たりにし「建設業の力とエネルギーを感じた」と思い出が目に焼き付いているという。休日は旅行やドライブでリフレッシュ。新たな挑戦への英気を養う。

（東京支局 山下雄一）

【略歴】1995年大東文化大学卒、95年建装工業入社。2018年NITTO入社。21年代表取締役就任。53歳。千葉県流山市出身。